

留学生との交流活発に

議論の白熱 吉備国際大でシンポ



の場としてオープンした。アジア村の活性化に地域住民の力を借りては」という意見もあった。主催する学生生活向上部長の横井輝夫保健医療福祉学部准教授は「学生の思いを受け止めるのが教育の原点。白熱した議論になった」と感想を述べた。【山本麻美子】

学生5人に1人が留学生の吉備国際大（高梁市）で30日、「留学生と日本人学生の交流を活発にするためのシンポジウム」が初めて開かれた。教職員や学生ら約80人が参加し、中国、韓国からの留学生、日本人学生らが活発に討論した。写真。

学生アンケートで、

留学生、日本人双方が交流を望んでいるにもかかわらず、機会が少ない実態がわかった。シンポでは、齋田竜蔵社会学部准教授が司会を務め、日常生活のなかで交流が深まるような仕掛けが必要など、三つの論点から突っ込んだ意見を交わした。

参加者から「（交流